

米国と新冷戦：その社会主義的評価

トリコンチネンタル誌

The United States Is Waging a New Cold War: A Socialist Perspective

以下に紹介するのは、キューバに本拠を置く「社会主義のための三大陸研究所」の発行するウェブ・マガジンの特集号（9月13日号）の翻訳です。研究所の名前は、1966年1月にキューバで開催された三大陸会議に基づいています。会議は民族解放、非同盟、社会主義の方向性を打ち出しました。特集号は全体の論文紹介と以下の3本の論文が掲載されています。

1. 「21世紀のエコロジーと平和運動のための“絶滅論”ノート」 ジョン・ベラミー・フォスター

2. 「誰が米国を戦争に導いているのか？」 デボラ・ヴェネチアレ

3. 「何が米国を国際的な軍事的侵略の拡大へと駆り立てているのか？」 ジョン・ロス

以下に、ヴィジェイ・プラシャードによる「紹介」と第一論文を掲載します。第二論文、第三論文は次号から順次紹介します。

ヴィジェイ・プラシャード

読者の皆さんへ

この論文集は、「マンスリー・レビュー」、「冷戦ノー」、「三大陸：社会分析研究所」の三者による共同制作です。ぜひご一読いただき、友人と共有し、機会があれば議論してください。

(**ヴィジャイ・プラシャド** (Vijay Prashad) インド出身の歴史学者、ジャーナリスト。トリニティ・カレッジの南アジア史教授)

貴重な人間の生命と地球の寿命が危機に瀕しています。この事実を無視することはできません。世界中のほとんどの人は、私たちが本当に直面する問題をなんとか解決したいと思っています。

この戦争は、欧米のエリートが「優位な権力を維持したい」という狭い欲望に駆られて起こした紛争です。私たちはそれに引きずり込まれることを望んでいません。

私たちは何よりもいのちを肯定したいのです。

キッシンジャーの言葉

2022年5月23日、スイスのダボスで開催された世界経済フォーラムで、[ヘンリー・キッシンジャー元米国務長官がウクライナについて語った言葉](#)が印象に残っている。

キッシンジャーは、
「米国を中心とする西側諸国は、その場のムードに巻き込まれるのではなく、ロシアが満足するような和平合意を実現する必要がある」と述べた。



ヘンリー・キッシンジャー

「この先も戦争を続けるのであれば、それはウクライナの自由のためではなく、ロシアそのものに対する新たな戦争になる」とキッシンジャーは言った。

西側外交のエスタブリッシュメントからのコメントのほとんどは、[目を丸くしてキッシンジャーのコメントを否定](#)している。

しかし、キッシンジャーは、単純な平和主義者ではない。

彼はアジアに新たな鉄のカーテンを作るだけでなく、西側とロシア・中国との間で、公然かつ致命的な戦争がエスカレートする危険性を示唆したのである。

キッシンジャーの上司であるリチャード・ニクソン元大統領は、国際関係の「狂人理論」についてよく話していた。

ニクソンは参謀のボブ・ホールドマンに、ホーチミンを脅して降伏させるために「核のボタンに手をかけている」と言ったという。

「長期的利益のための短期的苦痛」

2003年の米国のイラク侵攻を前に、私は米国国務省のある高官に話を聞いた。その人が言うには、ワシントンでは「長期的利益のための短期的苦痛」という単純なスローガンが一般的な理論だという。つまり、他国のために、そしておそらく米国の労働者のために、短期的な痛みを容認するというのが一般的な考え方だというのである。

戦争が引き起こす混乱と殺戮によって、経済的困難に陥るかもしれない。しかし、もしすべてがうまくいけば、この代償は、長期的な利益につながるだろう。なぜならそれは、米国が第二次世界大戦の終わりから保有してきた優位性を今後も維持することができるためだ。

話を聞いていて「うまくいけば」という運任せの前提が恐ろしく、背中がゾクゾクしたことを憶えている。

しかし、それと同じくらいに私が驚いたのは、誰が苦痛に直面し、誰が利益を享受するのかということに対する冷淡さであった。ワシントンでは、石油や金融の大企業がイラクを征服して得られる利益を享受することが、何よりも重要視されていた。

イラク人や労働者階級の米兵が悪影響を受ける(最悪の場合は死ぬ)ことは、そのための代償に値すると語られていたのである。極めてシニカルな意見である。

この「短期的な痛みと長期的な利益」という態度こそ、米国のエリートたちの決定的な幻覚である。人間の尊厳や自然の生命をまっとうしたい当たり前の願いを、彼らは容認しようとしな

「短期的な痛みと長期的な利益」という思考は、米国とその西側同盟国によるロシアと中国に対する危険なエスカレーションを規定している。

「ユーラシア大陸の統合」の阻止

米国の姿勢で印象的なのは、「ユーラシア大陸の統合」というプロセスを阻止しようとするところである。統合こそは歴史的必然と思われるのだが。

08年のリーマンショックは、米国の住宅市場の崩壊と欧米の銀行セクターにおける大規模な信用危機をもたらした。その後、中国政府は他の南半球諸国とともに、北米や欧州の市場に依存しないプラットフォームの構築に軸足を移した。

2009年のBRICS(ブラジル、ロシア、インド、中国、南アフリカ)の設立、2013年の「一帯一路構想」(BRI)の発表などがそれである。

それはロシアのエネルギー供給と膨大な金属・鉱物資源保有量を下支えとしており、中国の産業・技術力は、政治的志向を抜きに、多くの国々をBRIとの関連付けに引き込んだ。その中には、ポーランド、イタリア、ブルガリア、ポルトガルなどが含まれ、ドイツは現在、中国にとって最大の実需貿易相手国となっている。

ユーラシアの統合という歴史的事実は、米国と大西洋岸のエリートの優位性を脅かした。この脅威が、米国があらゆる手段を使ってロシアと中国の両方を「弱体化」させようとする危険な試みを後押ししているのである。

ワシントンでは、古い習慣が支配的であり続けている。それはデタント(緊張緩和)理論を否定し、核の永続的な優位性を求めてきたのである。米国は、その核覇権を維持するために地球を破壊できるような核戦力と態勢を整備してきた。

ロシアと中国を弱体化させる戦略

ロシアと中国を弱体化させる戦略には二つある。

第一に、米国が課すハイブリッド戦争(制裁や情報戦など)のエスカレートを通じてこれらの国々を孤立させようとするものである。

第二に、これらの国々をバラバラにした上で、弱体化させ解体しようとするものである。

第三に、これらの国々を支配し、帝国による支配を永続化しようとするものである。

三論文の紹介

本巻の3つの論考は、ウクライナで今まさに顕在化している、米戦略の長期的な動向を詳細かつ科学的に分析したものである。

1. 「排外主義に関するノート：21世紀のエコロジーと平和運動のために」 ベラミー・フォスター

月刊誌『マンスリー・レビュー』の編集員ジョン・ベラミー・フォスターは、米国の「エスカレーション支配」戦略論をスキーム化している。

(ジョン・ベラミー・フォスター (John Bellamy Foster) は、アメリカ合衆国の社会学者。専門は、マルクス主義政治経済学、環境社会学。現在 [オレゴン大学](#) の社会学教授および『[マンスリー・レビュー](#)』編集者)

アメリカは「核の冬」、つまり全滅の危険を冒してでも、核問題で優位に立ちたいと考えてきた。それは「チキンゲーム」の発想である。

* チキンゲーム：相手を屈服させようとして互いに強引な手段をとりあう争い(デジタル大辞典)

ロシアと米国が実際に保有する核兵器の数にもかかわらず、米国はロシアと中国を破壊できると信じる対抗兵器体系を全面的に発展させてきた。なぜならアメリカは、ロシアと中国の核兵器を破壊し、これらの国々を服従させることができると信じているからだ。

この幻想は、米国の政策立案者の退屈な文書の中だけでなく、時折、大衆紙にも登場する。そこではロシアに対する核兵器の先制攻撃能力が重要なカギであると主張される。

2. 「誰が米国を戦争に導いているのか？」 デボラ・ヴェネチアレ

イタリア在住のジャーナリスト、デボラ・ヴェネチアーレは、米国における軍国主義の社会的基盤を掘り起こす。

(**デボラ・ヴェネチアーレ**(Deborah Venezia)はベネチアに在住するジャーナリスト。三大陸研究所の研究者として協力している)

彼女は、米国がロシアや中国に対する対決戦略をどのように支えてきたかを分析する。そして戦略策定にあたって政治エリートの諸グループが存在することを明らかにする。

それはシンクタンクや軍需関係企業、政治家やその「使い走り」たちの構築する狭く濃密な世界である。彼らは自らの優位を天賦のものと考え、チェックアンドバランスという憲法の保護機能を否定している。

米国の富裕層 400 人の純資産の合計は、現在 3 兆 5 千億ドル近くになる。世界の経済的エリートはその多くが米国出身である。彼らは不法なタックスヘイブンに脱税した 40 兆ドル近くをため込んでいる。それが可能なのは、米国のエリートが世界の社会的富に対する並外れた支配力を持っているからだ。それを確保するために、彼らは紛争に首を突っ込み制裁をせかす。

3 . 「何が米国を国際的な軍事的侵略の拡大へと駆り立てているのか？」 ジョン・ロス

「冷戦ノー」のメンバーであるジョン・ロスは、「米国はウクライナ紛争を通じて、全世界に対する軍事攻撃を質的にエスカレートさせた」と書いている。

(**ジョン・ロス**(John Ross)： 中国経済研究者。英反戦団体「冷戦ノー」メンバー)

この「一連の戦争」は、米国が大国ロシアと直接対決する意思を示し、台湾を「ウクライナ化」することで中国との対立をエスカレートさせようとしている(二正面作戦)ために緊張の度合いを強めている。そして、とても危険なものとなっている。

ロスは主張する。

「米国を抑制することができるのは、中国しかない。最大の武器はその政策的弾力性であり、主権とそのプロジェクトを守るための関与である」と。

南半球では、米国による外交政策の押し付けに対して苛立ちが高まっている。世界のほとんどの国は、ウクライナ戦争を自分たちの紛争とは考えていない。世界は人類にとってもっと深刻で広範な困難に直面しており、ただちに対処する必要性に迫られているからである。

アフリカ連合のムーサ・ファキ・マハマト代表が 2022 年 5 月 25 日に次のように述べたのは、そのことを物語っている。「アフリカは、遠く離れたロシアとウクライナの紛争の巻き添えになっている」

ウクライナは空間的に遠いだけでなく、アフリカ、アジアやラテンアメリカの国々の政治的目標から見ても遠いのである。

以上がブラシャドによる紹介です。